

(3) 「グローバル探究」における育成指標の検討と評価について

2021年3月15日

河合塾 アセスメント事業推進部 山口大輔

1. はじめに

新学習指導要領が22年度からスタートするにあたり全国の高校で「総合的な探究の時間」の検討が活発に行われ、先行事例なども増えてきている。ただその中身を見てみると「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」のサイクルを実践することに重きがおかれすぎており、そもそも何のために行うのかという目的が欠落しているケースが多いように感じる。その意味で本事業のような人材育成のための取り組みは非常に重要であり、国際高校での取り組みにおいても単に評価と検証を行うのではなく、関わる教員の方々が人材育成視点に基づき「グローバル探究」の実践と評価を行えるようになることを目指し、担当教員の方々と試行錯誤した1年であった。

2. 高校との活動履歴

2021年7月19日 オンライン打合せ

2021年8月2日 教員研修見学及び打合せ

2021年8月30日 教員研修

2021年9月7日 オンライン打合せ

2021年12月3日 「グローバル探究Ⅱ」公開授業（発表会）オンライン参加

2022年2月3日 オンライン打合せ

※その他、適宜メールにて相談対応

3. 実施内容

(1) 2021年7月19日 オンライン打合せ

中尾校長、松本先生ほか担当教員、WWLカリキュラムアドバイザーである阪南大学祐岡先生と初顔合わせを行い、「グローバル探究」の現状と高校が感じている課題感を共有した。国際高校は教育理念に基づいた「育てたい6つの力」と、それらを育成するためのカリキュラム設置を逆向き設計で描いており、これは他校にとって参考になるグランドデザインの描き方と言える（図1参照）。加えて「育てたい6つの力」のルーブリック（図2参照）も出来上がっており、ここまで描けている高校はそう多くはないだろう。「グローバル探究」の評価を考えるにあたり、このルーブリックをベースに実施していくことが理想ではあるが、実態として教員間でルーブリックの理解にバラつきがあること、また生徒には年2回程度しか評価する機会がないなどカリキュラムに根付いているとは言い難い状況であることが明らかになった。またESD（持続可能な開発のための教育）を「グローバル探究」の核としていきたいという担当教員の思いがあるものの、このような時に気をつけたいのは

担当教員が一生懸命作ったもののあまり使われない、というケースである。これらの課題をクリアにするためにまずは全教員が方向性を理解し、想いを共有する必要があるため、8月30日に教員研修を実施することとした。

図1. グランドデザイン

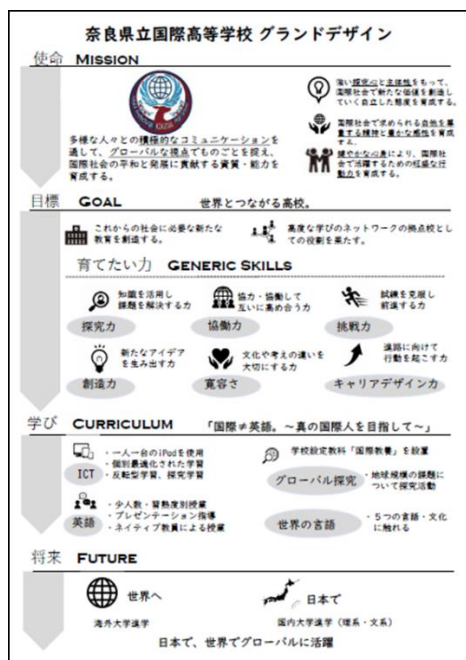


図2. ルーブリック

身につけたい力	グランドデザインによる解説	ルーブリック			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
探究力	知識を活用し課題を解決する力	生活や社会について考え、改善したい課題を見つ	地域や社会で解決したい課題を見つ	地域や社会のより、グローバルな視点か	い未来に向けて、改ら、世界的な課題
創造力	新たなアイデアを生み出す力	与えられた情報を整理することができる	地域や社会の課題について情報を集め、内容を批判的	地域や社会の課題やその解決のための	自己の考えに固執することなく、クロー
協働力	協力・協働して互いに高め合う力	他者と積極的にコミュニケーションをとることができる	目標達成のために集団の中で他者の助けを頼り、支	課題解決に向け、自己の責任を果たしなが	対話を通して、自己
寛容さ	文化や考えの違いを大切にできる力	相手の立場や考えを気づかせることができる	相手の立場や考えを常に想像し、共感することができる	文化や考え等の違いを尊重し、違いを認	自分とは違う意見
挑戦力	試練を克服し前進する力	与えられた指示に従って自分の作業をす	課題を自ら発見し、取り組むこと	課題に取り組む意	高い目標や志をもち
キャリアデザイン力	進路に向けて行動を起こす力	自己の適性について考えることができる	自己の適性を理解し、進路に関する情報を自ら集めることができる	希望する進路を実現するための課題を把握することが	困難なことに向き

(2) 2021年8月2日 教員研修見学及び打合せ

8月30日の教員研修に向けて、これまでの流れを崩して教員の混乱を招くことがないようにするため、祐岡先生の教員研修を見学させていただいた。6つのゼミの担当教員がこれまでの内容を振り返り、2学期に向けてのビジョンを共有したことで、不安な気持ちを抱えながら進んでいた教員の方々も少し安心できたのではないかと思います。

研修後、8月30日の教員研修に向けて事前打合せを行った。ルーブリックの理解を深めるために事前にルーブリックを読み、各レベルの決め手をチェックする課題を準備することにした。また2学期から使用する評価シートの作成に向けて、評価活動内容の絞り込みが必要であったため、参加教員に対して重要だと感じる評価活動内容を選んでもらうワークシートを準備することにした。

(3) 2021年8月30日 教員研修

「校内の目指す姿とジェネリックスキルの関連性」というテーマで教員研修を実施した。目的は2つ。1つは前述のとおり教員間でルーブリックの共通理解を持ち、グローバル探究の評価の方向性を共有することである。事前課題を教員間で共有することでルーブリックの中身や、その問題点について理解を深め、グローバル探究で使いながらブラッシュアップ

させていく必要があるという共通認識を持った。

もう1つの目的はジェネリックスキルを理解し、育てたい6つの力との関連性を整理してもらうことである。ジェネリックスキルとは「社会で活躍するために必要な汎用的な力」のことであり、河合塾が提供する「学びみらいPASS」で測定することができる(図3参照)。具体的にはリテラシー(知識を活用して課題を解決する力)とコンピテンシー(経験を積むことで身についた行動特性)を測定しており、あわせて13の資質・能力を測っている。国際高校でも毎年受験しているため、ルーブリックと紐づけることで「育てたい6つの力」の伸びを客観的な数値として見るのが可能になる。言葉の定義からすれば図4のような対応関係になるはずである。

図3. ジェネリックスキル

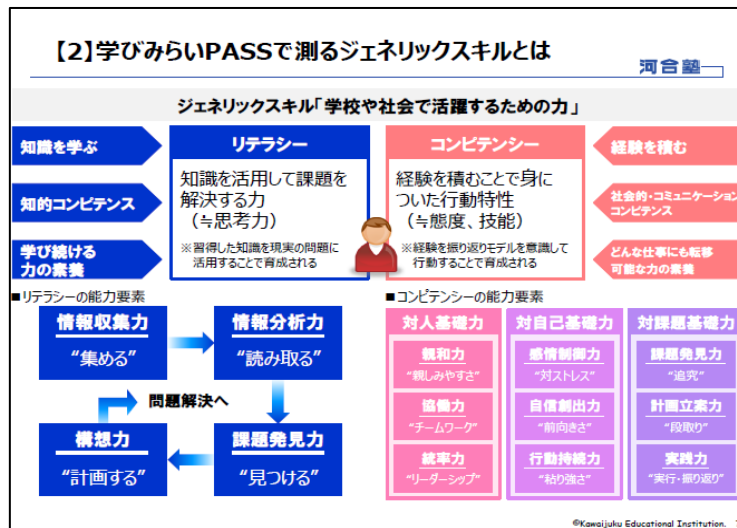


図4. 「育てたい6つの力」とジェネリックスキルの紐づけ (仮)

	リテラシー 総合	コンピテンシー		
		対人	対自己	対課題
探究力	●			●
創造力	●			●
協働力		●		
寛容さ		●	●	
挑戦力			●	
キャリアデザイン力	●		●	●

また2学期から使用する評価シートの作成に向けて、各教員が重要だと感じる評価活動内容を選んでもらうワークシートを事後課題として与えた。全教員の結果を集計して活かすことで、他人事ではなく自分が関わった評価シートと思えるようにするためである。